

2022年度 日本法社会学会学術大会

参加案内とプログラム

2022年5月20日（金）・21日（土）・22日（日）
会場・成蹊大学（ハイブリッド開催）

日本法社会学会2022年度学術大会を、2022年5月20日（金）・21日（土）・22日（日）の3日間にわたって、成蹊大学を会場として開催します。また、同時にインターネットによるリモート参加も可能とします。【ハイブリッド開催】

新型コロナウイルス感染の広がりの状況が思わしくなくなった場合は、直前であってもWeb開催のみとすることもありえますことをご了承ください。

開催方法・参加方法・時間については今後変更もありえますので、法社会学会ウェブページにて最新の情報をご確認ください。

【問合わせ先】学術大会にかかる問い合わせは、学会事務局宛ではなく、
[jasl-annual-meeting\(アットマーク\)ml.doshisha.ac.jp](mailto:jasl-annual-meeting@ml.doshisha.ac.jp)までお願いいたします。

日本法社会学会2022年度学術大会参加方法

会員の方も非会員の方も
会場参加の方もリモート参加の方も
必ず事前参加登録(5/10×切)をお願いします

【事前参加登録 5/10×切】

学会員の大会参加登録および非会員の傍聴登録ともに5/10に×切ます。
×切後の参加登録はできません。

【事前参加登録先】をクリックすると事前参加登録ページにジャンプします。

会員の方

大会への参加登録は×切しました。

非会員の方

~~登壇される方~~

~~学部生で傍聴される方~~

~~社会人・大学院生で傍聴される方(傍聴費1,000円、クレジットカード決済)~~

【問合わせ先】学術大会にかかる問い合わせは、学会事務局宛ではなく、

[jasl-annual-meeting\(アットマーク\)ml.doshisha.ac.jp](mailto:jasl-annual-meeting@ml.doshisha.ac.jp)までお願いいたします。

参加方法

会場参加の場合 事前参加登録を5/10までにお済ませの上、会場にお越しください

リモート参加の場合 事前参加登録が完了するとZOOMアクセス用のURLが表示され、同様の内容を記載した確認用のメールが登録されたメールアドレスに送信されますので、リモート参加の方はそれに従いご参加ください。

成蹊大学へのアクセス

JR中央線・総武線(東京メトロ東西線)京王井の頭線

【吉祥寺駅】下車吉祥寺駅より徒歩約15分

吉祥寺駅北口バスのりば1・2番より関東バス約5分『成蹊学園前』下車

会場での昼食(弁当)の手配はありませんので、各自ご用意の上、会場にお越しくださいますようお願いいたします。

西武新宿線

【西武柳沢駅】下車西武柳沢駅南口より関東バス(吉祥寺駅行)約15分『成蹊学園前』下車

交通案内図 <https://www.seikei.ac.jp/university/aboutus/accessmap.html>

会場は8号館と10号館です。

https://www.seikei.ac.jp/university/aboutus/campus_uni/

【問合わせ先】 学術大会にかかる問い合わせは、学会事務局宛ではなく、

[jasl-annual-meeting\(アットマーク\)ml.doshisha.ac.jp](mailto:jasl-annual-meeting@ml.doshisha.ac.jp) までお願いいたします。

2022年度学術大会ZOOMサポート情報

【リモートアクセスした場合のZOOMアクセス】

- ・リモートアクセスでは同時開催される各分科会はZOOMのブレイクアウトセッションを利用して行います。事前登録後に連絡されたZOOMミーティングにアクセスされたあと各自で希望されるブレイクアウトセッションに移動してください。
- ・ZOOMミーティングにはZOOM運用サポート要員が配置されておりますので、不明な点はチャットにてお尋ねください。

【会場参加された場合のZOOMアクセス】

- ・会場参加される場合でもお手元でZOOMミーティングにアクセスすることはできます。ただし、教室付属のマイクとスピーカーを設定しておりますので、ハウリング防止のため各自のパソコンやパッドのマイクとスピーカーは絶対必ずオフにしてください。

【ZOOMアクセス時の名前表示】

- ・ZOOMミーティングに参加されましたら、お名前を以下のように変更願います。
操作方法はZOOM画面から(参加者→自分の名前にカーソル移動→詳細→名前の変更)です。
例 鈴木一郎(会員・成蹊大学)

【問合わせ先】学術大会にかかる問い合わせは、学会事務局宛ではなく、

[jasl-annual-meeting\(アットマーク\)ml.doshisha.ac.jp](mailto:jasl-annual-meeting@ml.doshisha.ac.jp)までお願いいたします。

懇親会(オンラインのみ)のご案内

5月21日(土)18:30-19:30に、テレビ会議システムを用いた懇親会を開催致します。
(午後のセッションの終了時間によっては早めの開始となる場合があります。)

【会場参加の方もリモートのみでの参加となります。リアルの懇親会会場はございません。】

【会場にはアクセスポイント教室を設けます。】

【アクセスポイントではハウリング防止のため各自イヤホン・ヘッドホンをご用意ください。】

学術大会分科会と同じZOOMミーティングにて関係者挨拶等の後、そのまま懇親会を行います。適宜ブレイクアウトルーム等も利用してご歓談ください。

~~Spatial Chatに移動して懇談します。~~

~~Spatial Chatへのアクセス方法はZOOMミーティング画面あるいはチャットにてご案内します。~~

【問合わせ先】学術大会にかかる問い合わせは、学会事務局宛ではなく、

[jasl-annual-meeting\(アットマーク\)ml.doshisha.ac.jp](mailto:jasl-annual-meeting@ml.doshisha.ac.jp)までお願いいたします。

日本法社会学会 2022年度学術大会 プログラム

5/20 (金)
13:00-17:00

031.若手ワークショップ (会員のみ参加可)

コーディネーター

杉田和正、李英

第一部「法社会学国際会議リスボン大会参加者予備報告会」

大塩浩平 “Coevolution of Law and Society: Resilient Society and Law as an Operating System”

杉崎千春 “The Treatment of Rising Non-Appearance Rate of Saiban-in Candidates”

波多野綾子 “Toward Aligning with International Gender Goals? Analysis of the Gender Equality Landscape in Japan under the Laws on Women’s Economic and Political Participation and Leadership”

第二部「若手研究者のメンタルヘルス問題」

横路佳幸 「大学院生におけるメンタルヘルス問題について」

第三部「若手会議」

5/21 (土)

111.ミニシンポジウム①

112.ミニシンポジウム②

113.ミニシンポジウム③

114.個別報告分科会①

9:30-12:30

<p>【国内・国際刑事法の沿革と展開——刑罰観の生成と法現象】</p> <p>コーディネータ・司会 安藤泰子</p> <p>土ヶ内一貴 「刑罰観と処遇観の変遷と、その展望」</p> <p>竹村仁美 「国際刑事裁判所の裁判例にみる国際共通利益概念——国際刑事法の発達に伴い生ずる諸課題の解決——」</p> <p>安藤泰子 「刑法の沿革と展開——刑法の分化」</p> <p>黒澤睦 「刑事訴訟法の沿革と展開——市民・犯罪被害者と刑事司法との関わりの観点から」</p>	<p>【平成の司法改革を振り返る—社会、法との相互作用の視点から】</p> <p>コーディネータ・司会 杉崎千春</p> <p>飯考行 「平成の司法改革における社会、法との相互作用」</p> <p>平山真理 「裁判員制度と犯罪被害者—平成の司法改革における被害者の視点」</p> <p>杉崎千春 「裁判員選任手続の実情—選任年齢18歳引き下げと不選任請求を中心に」</p> <p>西村健 「平成の司法改革の弁護士業務への影響と論点—刑事弁護を中心に」</p> <p>富田さとこ 「生活者としての外国人の法的支援ニーズの変化」</p> <p>大澤恒夫 「平成の司法改革の法曹養成への影響と論点—臨床法学教育を中心に」</p> <p>四宮啓 「コメント」 後藤昭 「コメント」</p>	<p>【裁判過程における人工知能による高次推論支援プロジェクト最終報告】</p> <p>コーディネータ・司会 佐藤健</p> <p>佐藤健 「裁判過程における人工知能による高次推論支援システム研究の概要」</p> <p>太田勝造 「法的支援システムに基づく裁判は人々に受け容れられるか？」</p> <p>佐藤健 「裁判過程における判決推論支援および争点整理システム」</p> <p>高橋和子 「裁判過程における議論解析手法の開発」</p> <p>狩野芳伸 「法律文書の自然言語処理」</p> <p>本村陽一 「ペイジアンネットとデータ・知識循環サイクルによるマルチステークホルダープロセスの支援」～AI技術とビッグデータを活用した共創基盤～</p>	<p>司会 小佐井良太</p> <p>菅原郁夫 「日本人の法意識再論——日本人の訴訟嫌いについて」</p> <p>佐々木通孝 「知的財産権関係民事訴訟の和解成立要因 原告勝訴率を基にした分析」</p> <p>大塩浩平 「法とALife – 数理進化理論から見た法の継受現象 –」</p> <p>北村隆憲 「法実践の新たな教育手法の開発—ビデオ映像と相互行為分析を用いた試み」</p>
--	---	---	---

12:30-13:30 昼食

12:30-13:30 121.女性ランチョン

※会員のみ

13:30-14:00 131.ハラスメント防止 啓発講演会

浅倉むつ子（早稲田大学名
誉教授） 「研究者育成とハラスメン
ト」

※会員のみ

14:00-15:00 141.会員総会

※会員のみ

5/21 (土)

151.ミニシンポジウム④

152.ミニシンポジウム⑤

153.ミニシンポジウム⑥

154.企画関連ミニシンポジウム①

15:00-18:00

<p>【法と法をつなぐ <Inter-legality> の解明に向けて】</p> <p>コーディネータ・司会 高村学人</p> <p>高村学人 「法と法をつなぐ<Inter-legality>の解明に向けて-企画趣旨説明」 浅野有紀 「法と社会、そして法と法をつなぐ <Inter-legality>」 中空萌 「翻訳される法-アクター・ネットワーク理論の観点から」 高野さやか 「アダットをめぐる Inter-legalityの実践」 清水真希子 「ハードローとソフトロー、ソフトローとソフトローのせめぎあい-日本のコーポレートガバナンスを素材として」 高橋裕 「コメント」</p>	<p>【弁護士への信頼と選択】</p> <p>コーディネータ・司会 村山真維</p> <p>太田勝造 「弁護士に対する基本イメージ」 杉野勇 「一般市民からの弁護士イメージの特徴」 村山真維 「弁護士選択において人々が重視する情報」 森大輔 「弁護士選択を左右する情報」 飯考行 「隣接法律専門職、弁護士と裁判を利用する人の属性」 椎嶋裕之 「ディスカッサント」</p>	<p>【刑事分野弁護士活動「多様化」の現状と課題】</p> <p>コーディネータ・司会 宮澤節生</p> <p>上石圭一 「刑事分野弁護士活動の分化と構造-ウェブ調査の再分析-」 宮澤節生 「ネット活用型事務所における刑事弁護活動の現状とインプリケーション」 橋場典子 「治療的司法における弁護士活動の現状と課題」 大塚浩 「犯罪被害者支援における弁護士活動の現状と課題」 高平奇恵 「コメント1-刑事弁護実務の視点から-」 池永知樹 「コメント2-弁護士業務の全体的構造に関心を持つ視点から-」</p>	<p>【家族の問題に対する司法の役割-当事者のニーズと形を変えて継続する家族の視点から-】</p> <p>司会 田巻帝子</p> <p>田巻帝子 「企画趣旨・総論」 野沢慎司 「離婚・再婚と継続する親子関係の可能性-子どものニーズに無関心な日本社会」 近岡美由紀 「『司法アクセス』に至らない家事事件の紛争当事者」 中山直子 「家族問題解決における家庭裁判所の機能と限界」 原田綾子 「家事司法システムにおける子どもの意見表明権の保障-子どもと共に創るベスト・インタレストに向けて-」 稲田龍樹 「指定討論」</p>
--	--	---	---

18:30-19:30 161.懇親会

※オンラインのみ

※午後のセッションの終了時間によっては早めの開始となる場合があります。

5/22 (日) 211.ミニシンポジウム⑦ 212.ミニシンポジウム⑧ 213.ミニシンポジウム⑨ 214.企画関連ミニシンポ② 215.個別報告分科会②

9:00-12:00

<p>【契約に関する法態度】</p> <p>コーディネータ・司会 木下麻奈子</p> <p>木下麻奈子 「契約に対する態度の経年変化」</p> <p>松村良之 「所有権に対する法態度について—契約に対する法態度との対比で」</p> <p>前田智彦 「インターネット調査による契約意識再訪—サーベイ実験の報告を中心に」</p> <p>森大輔 「転売に対する規範的態度についてのサーベイ実験」</p> <p>池田清治 「コメント」</p>	<p>【外国人労働者に対する法の教育はどうあるべきなのか？】</p> <p>コーディネータ・司会 久保山力也</p> <p>荒井真希子 「ミャンマーにおける法の教育の可能性」</p> <p>エシュコビロフ・サルドル 「ウズベキスタンにおける法の教育の可能性」</p> <p>カク・ハンヨン 「韓国における法の教育の可能性」</p> <p>松尾弘 「法専門家への法の教育」</p> <p>久保山力也 「外国人労働者・市民・学生への法の教育」</p> <p>ダニエル・フット 「ディスカッサント」</p>	<p>【環境法執行過程の実証研究】</p> <p>コーディネータ・司会 北村喜宣</p> <p>北村喜宣 「環境法の執行活動を規定する諸要因」</p> <p>三好規正・北見宏介 「廃棄物処理法の執行における失敗とその要因」</p> <p>神山智美 「改正種苗法による植物新品種保護の取組—国、地方、事業者—」</p> <p>箕輪さくら 「動物取扱業規制の実施過程に関する考察」</p> <p>鈿持麻衣 「消防法の執行過程と実効性分析」</p> <p>平田彩子 「法社会学の見地からのコメント」</p> <p>田中良弘 「法学の見地からのコメント」</p>	<p>【社会運動と司法——同性婚訴訟を対象に】</p> <p>司会 飯田高</p> <p>加藤丈晴 「『結婚の自由をすべての人に』訴訟と政策形成訴訟の新たな可能性」</p> <p>木村草太 「憲法学の視点から」</p> <p>松田浩道 「国際人権法の視点から」</p> <p>秋葉文志 「法社会学の視点から——政策形成型訴訟の今日的展開」</p> <p>大塚浩 「指定討論」</p>	<p>司会 大坂恵里</p> <p>澤出成意人 「人格権訴訟における問題認知——自衛隊合祀訴訟を事例として——」</p> <p>浅水屋剛・加藤淳子・太田勝造 「リーガル・マインドの脳神経科学的探求」</p> <p>亀岡鉦平 「農業用ため池所有権の現代的考察」</p> <p>許仁碩 「日本公安委員会による監査機能の検証」</p>
--	---	--	--	--

12:00-13:00 昼食

5/22 (日)
13:00-16:50

221.全体シンポジウム

【民事紛争と司法—なぜ、事件数は増えていないのか】

司会

椛嶋裕之・田巻帝子

石田京子 「企画趣旨」

和田嵩 「弁護士は事件をどのように処理しているのか」

太田晃弘 「裁判所への道のり～法的紛争「以前」の課題～」

馬場健一 「弁護士の収入減と裁判所事件数の低迷について—見落とされている観点から—」

小津亮太 ディスカッション

渡辺千原 ディスカッション

16:50-17:00 231.理事長閉会挨拶